



洪牙利國ブダペスト大學名譽博士プロフェッ
ッル、アルミニウス、ワンベリ―叙勲ノ件
名謹テ裁可ヲ仰ク
明治三十九年七月六日
内閣總理大臣侯爵西園寺公望謹

内

閣



賞勳局書第一九二號

勳 二の九

明治卅九年六月廿七日

島

内閣總理大臣 臣 伊藤

賞勳局總裁



外務大臣上奏洪牙利國ブダペスト大學名譽博士プロフェ
ツッル、アルミウス、ワシベリ―叙勳ノ儀調査スル、同人ハブダ
ペスト大學ノ東洋語學教授ニシテ東洋學者トシテ全
歐ニ名聲アリ而シテ數年前ヨリ大ニ帝國ニ同情ヲ寄セ
明治三十五年始メテ日英同盟ノ成立スルヤ新聞紙上
ニ之ヲ歡迎シ日露戰爭ノ起ルヤ填地利洪牙利國及
英國等ノ新聞ニ雜誌ニ露國ノ廢制腐敗ヲ暴露

内

閣

シ之ニ反シ日本ノ正義ト文明ヲ賞揚シタリ而カモ同人カ最
モ力ヲ添ヘタルハ黃禍論ヲ排撃スルニアリ此黃禍論ハ兼
テ獨逸佛諸邦一部ニ流布セル迷論ナリシモ帝國ノ大勝
ヲ見テ一部ノ爲メニスル論者ハ又々此陳腐ノ文字ヲ利用シ
故造ノ説ヲ爲シテ世ノ嫉妬者無定見者ヲ動カシ帝國
ニ不利ヲ被ラシメトスルニ當リ同人ハ黃禍論ノ一冊ヲ著
ハレ獨佛兩語ニテ出版シテ邪説ヲ駁撃シ詳細ニ帝國政治
ノ正義ニシテ自由主義ナルヲ論證シ當時大ニ世論ヲ傾聴
セシメタリ而シテ黃禍論ノ勢力ハ次第ニ微弱トナリ今日殆
ント一ノ笑話トナリ終レリ是レ固ヨリ大勢ノ然ラシムル處

ナリト虽同人文筆上ノ尽力ハ大ニ時局中帝國政府ノ見地
ヲ明カミシ帝國ニ係ハル妄議ヲ正スニ貢獻セルモノミシテ其
功績歎カラス依テ右功勞ヲ御表彰被遊外務大臣上
奏ノ通此際同人ハ勲二等瑞寶章叙賜被仰出可
然哉此段允裁ヲ仰ク

内

閣

洪牙利國ブダペスト大學名譽博士

勲二等瑞寶章

プロフエツソル、アルミニウス、ワニベリー

右者ブダペスト大學ノ東洋語學教授ニシテ多年中央亞細亞地方ヲ旅行シ「アフガニスタン」及波斯諸國ノ事情ニ精通シ東洋學者トシテ歐洲全体ニ名聲アリ旦同人ハ數年前ヨリ大ニ帝國ニ同情ヲ寄セ明治三十五年始メテ日英同盟ノ成立スルヤ新聞紙上之ヲ歡迎シ日本近年ノ開明主義ニ照ス時ハ此ノ如キ同盟ハ當然ノ出來

外務省

事ニシテ怪ムニ足ラスト論シ日露戰爭ノ起ルヤ壤地利洪牙利國及英國等ノ新聞ニ雜誌ニ露國ノ壓制腐敗ヲ暴露シ之ニ反シ日本ノ正義ト文明ヲ賞揚シタリ而シテ同人カ最モ力ヲ添ヘタルハ黃禍論ヲ排撃スルニアリ此黃禍論ハ兼テ獨逸佛諸邦ノ一部ニ流布セル迷論ナリシモ帝國ノ大勝ヲ見テ一部ノ為メニスル論者ハ又々此陳腐ノ文字ヲ利用シ故造ノ說ヲ為シテ世ノ嫉妬者無定見者ヲ動カシ帝國ニ不利ヲ被ケントセリ此際ニ於テ同人ハ黃禍論一冊ヲ著ハシ

獨佛兩語ニテ出版シ邪說ヲ駁撃シ詳細ニ帝國
政治ノ正義ニシテ自由主義ナルヲ論證シ當時
大ニ世論ヲ傾聴セシメタリ露獨兩國ノ一部ニ
テハ此著述ノ發表ハ不興ヲ醸シタル由ニテ現
ニ同教授ノ手許ニハ其著述ヲ非難シタル書面
ノ到來シタルモノ少カラサリシト云フ而シテ
黃禍論ノ勢力ハ次第ニ微弱トナリ今日ニテハ
殆ント一ノ笑話トナリ終リタルハ實際ニシテ
是レ固ヨリ大勢ノ然ラシムル所ナリト雖モ同
人文筆上ノ盡力ハ大ニ時局中帝國政府ノ見地

外務省

ヲ明カニシ帝國ニ係ハル妄議ヲ正スニ貢獻ア
リタルモノニシテ其功績歟カラサルヲ以テ右
功勞ヲ御表章被遊此際頭書ノ通叙勲被仰出度旨
前特命全權公使牧野伸顯ヨリ申立有之候間談
勲章被下賜候様仕度此段謹テ奏ス

明治三十九年六月二十三日

外務大臣子爵林董



送第一四五號

明治年月日

洪牙利國ブダペスト大學名譽博士プロフエツソ
ル、アルミニウス、ワシントン叙勲ノ義別紙ノ通上奏
致候間可然御取計有之度此段申進候也

明治三十九年六月廿三日

外務大臣子爵林 董



内閣総理大臣侯爵西園寺公望殿

外務省